



わたなべ よしまさ
渡辺 佳正
(日本共産党議員団)

公共交通の抜本的充実に向けて

問 宮タクの増便について、その経費や効果を検討して、利用者の立場から宮タクの使いやすさを改善する必要があるのではないかと。

部長 増便すると、1便当たりの乗車人数が減って事業継続が困難になる。経費や福祉的効果を試算したことはない。

問 市のホームページなどで、路線バスの割引制度や宮タクの使い方について、もっとわかりやすく丁寧な説明が必要ではないかと。

部長 市のホームページは情報量が不足しているので、内容を充実させていきたい。

問 公共交通の経済効果と福祉的効果を調査して、公共交通に税金を投入する必要性を明確にしていくべきではないかと。

部長 コストの数値化で公共交通の必要性が

明確になると思うが、市も事業者もよりよい公共交通を目指して努力しているので、調査する考えはない。

危機的な畜産酪農業への緊急支援について

問 牛乳の消費拡大について何か考えているのか。

部長 「牛乳を毎日一杯飲もう運動」や、給食のない休日、土日、休みなどの期間中、牛乳消費を呼びかけるポスターが出されてきている。

問 危機的な畜産酪農の状況について市長の考えは。

市長 国の無責任な指導で酪農家が困っている現状はわかる。チーズなど加工製品への取組が可能であれば、市として応援していきたい。

意見 加工乳と生乳の価格差を補填することで、牛乳加工製品への利用拡大につながる。農業は国の基幹産業という考えに基づいて、市長会を通じて食料自給率の向上と畜産酪農危機への緊急支援を国に働きかけてもらいたい。



さの かずひこ
佐野 和彦
(富岳会)

感染症の事実確認と今後の対策

問 コロナウイルス感染症2019に感染し、後遺症で苦しむ市民への対応について。

部長 富士医療圏では富士宮市立病院をはじめ2病院、2診療所が公表されている。市ではかかりつけ医や医療機関に電話相談していただくか、診察可能な医療機関を案内している。

病院長 当院の後遺症外来では、令和3年8月から令和5年2月までに13人の患者を診察し、小児科部門では37人を診察している。これから症状の研究も進み、専門機関と連携し対応していく。

問 後遺症の認定に2か月もかかるものなのか。

病院長 コロナの後遺症やコロナワクチンの後遺症も、感染後や接種後の急性期を過ぎた症状は後遺症と言っても良いと思うが、その方を全て医療機関で診療すると対応できなくなる

ので、1~2か月経っても治らない方は、重症と判断し専門医療機関で重点的に診るとなっている。

問 带状疱疹ワクチンの助成は考えられないか。

部長 国の助成や県内市町を見ながら今後の対応を考えていく。

問 公民館や交流センターの人数制限の違いと、いつ通常の収容人数に戻すのか。

部長 部署の違いで、利用目的や利用者が違うので現在の収容人数となっており、令和5年4月1日より通常の人数に戻す調整をしている。

富士宮市立病院の待ち時間解消について

問 自動会計システム導入の予定はないのか。

部長 令和5年度中に病院システムの改修を行い、自動精算機2台を導入する準備を進める。

1級市道北町阿幸地線歩道未開通部分について

問 歩道の全面開通はいつ頃になるか。

部長 未整備箇所の用地協力については、地権者の動向を見ながら引き続きお願いしていく。

要望 歩道がしっかり完成することを願う。